

議 事 録

- 1 会議名 平成29年度第3回さぬき市まち・ひと・しごと創生有識者会議
- 2 日 時 平成29年8月31日(木) 9時30分～11時30分
- 3 場 所 さぬき市役所 3階 302会議室
- 4 出席者 (委員)
多田委員 鈴木委員 岩田委員 福家委員 大塚委員 尾崎委員 池田委員
(市)
向井総務部長 総務部政策課 谷課長 大生課長補佐 津村副主幹
- 5 傍 聴 1名
- 6 会議次第
1 開会
2 座長挨拶
3 議事
(1) まち・ひと・しごと創生総合戦略に係るヒアリング結果について
(2) さぬき市元気づくり懇談会について
(3) 提言書案について
4 事務連絡
5 閉会
- 7 配布資料 ○平成29年度さぬき市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係るヒアリング結果一覧
○さぬき市元気づくり懇談会～第1弾シンポジウム～参加者アンケート集計
○さぬき市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進に向けて(案)及び別冊資料

8 議事の経過及び発言要旨

< 開 会 > (9 : 3 0)	
総務部長 政策課長	<事務局挨拶> 要綱の規定によりまして、座長に御挨拶いただいたあと、進行をお願いします。
座長	<挨拶> 本日の会議ですけれども、11時30分くらいをめどに終了したいと思います。 さっそくですが、議題に入ります。まずは、まち・ひと・しごと創生総合戦略に係るヒアリング結果について、それから議題2のさぬき市元気づくり懇談会について、この2点についてはいずれも報告案件ですので一括して進めたいと思います。 ヒアリングに関しては、お忙しい中参加をいただきありがとうございました。それでは本2件について、事務局は簡潔に資料を解説してください。
事務局	<説明>
座長	ありがとうございました。ヒアリングやシンポジウムに参加された意見などを、みなさん、一言ずつよろしくをお願いします。

委員	<p>私自身は、シンポジウムに参加してすごくよかったなと思っております。パネリストの一人が、一を十に変える発想が必要だ、と言われていました。それを聞いて、全くそうだと思います、それがものすごく印象に残っています。私もこれからは、それを心掛けていこうと思っています。それと、発信力が強いのは、やはりロコミ。最後はロコミです、と教えられました。それが印象に残っています。さぬき市民にとって、住みよくて、住み続けたいさぬき市にしてほしい、という意見が載っていましたので、それをいかにして、これから実現させていくか、考えていく必要があると思いました。</p>
委員	<p>私もシンポジウムに参加させていただきました。ヒアリングは都合があって、参加できなかったのもとても残念に思っています。シンポジウムは、自分の席の周りには社会人の男性の40代・50代の方が座っていました。いつもですと、70代かな、という方がとても多いのですが、若いお父さん方もいらしたので、サポートワークショップにも参加しながら、これからどういう風にさぬき市を変えていけばいいのかな、とか、チャンスがあれば、ここで起業してみたいとか、新しい何かを求めて参加されているのかな、という風にも感じました。パネリストの中に、制服のリサイクルで起業されて、お店の周りの地域の人たちが賃金を得て、みんなで活動を広げている方がいました。その方のやり方を広めていってはいかがでしょうか。地域を活性化させていく主婦の案のようなものが、広がっていく。ちょっとしたアイデアが大きく広がっていくことを目の当たりにしたので、自分も、毎日の暮らしの中でちょっとした気付きを大事にしながら生活していけたらいいな、と思いました。そして、感謝と喜びを得られるようなことにつながられたらいいな、とも思いました。このシンポジウムに参加してとてもよかったなと思っています。</p>
委員	<p>私は、仕事の都合でシンポジウムとヒアリングに参加できなかったのですが、内容を見たら、行きたかったとすごく感じています。</p> <p>最近、感じるのはメディアごとの媒体によって、目的が違うなというのをすごく感じます。ブログとかホームページというのは正確な情報を伝える、SNSは情報を拡散していく役割があります。SNSの中でもfacebookは、どちらかというとな向きなジャンルになっていて、若い世代より、しっかりした年齢の人が使っているものになっています。インスタグラムとかtwitterは、結構若い世代が使っていて、役割が違っていると感ずることがあるので、うまく使い分けることがすごく大事なことじゃないかなと思います。</p> <p>特に、インスタグラムを活用するってなったときに、インスタグラムで大事なのは写真のクオリティだと思います。ヒアリングのときの市のホームページアクセス数向上に向けて、委員からも写真を活用してはどうかといった意見があったと思います。さぬき市では、遊びの達人や、ええところ写真コンテストとかでいい写真はいっぱいあると思うので、こういう写真とかをインスタグラムにアップしたり、ホームページで活用してほしいと思います。新しく撮るよりも、今まであったいいものをどんどん紹介していく方法でインスタグラムを使っていたきたいなと思いました。SNSを使うだけで満足するのではなくて、ちゃんと拡散する工夫と仕組み作りが大事だと思います。長くなりますが、インスタグラムも市の職員が運用するという話があったと思いますが、市の職員だけじゃなくて、例えば、モニターガールズとか、大学生とか、市外の方がさぬき市に来て、その人にインスタグラムに投稿してもらって、それを市のホームページなどでシェアして紹介していく。若い視点で拡散を意識して取り組んでいただきたいと感じます。以上です。</p>
委員	<p>私は、ヒアリングで感じたことですが、目標数値達成に向けて、どの項目も成果を上げてきていますが、まだ、①（現状値からH29まで変化がない）、②（現状値に比</p>

委員	<p>べ、H29 まで低下し続けている)が残っているというか、上がってきていないものもあって、それは設定自体がしっくりきてないからかな、とったりもしました。</p> <p>それと部署間の連携不足も感じました。みんながもっと協力して施策に取り組み、もっといい結果が得られると思います。それと人口減の対策として、人を増やすのであれば、マイナス要素はある程度目をつぶって、子育て支援に関する施策にもっと重点を置いて取り組んだほうがいいのではないかな、とりました。</p> <p>KPI 達成に向けて色々取り組んでいて、往々に答えを出していることは評価できることですし、喜ばしいことだと思いました。ただ、民間的な考え方という、将来を考えたとき、どのくらいの市民サービスが必要で、どのくらいの予算が必要なのか。そのための 1 つの目標として、人口は最低でも 5 万 3 千はいるな、とか。法人市民税としての収入はどれくらい必要、だとか。行き着くところはどこが望ましいのか、ということをもっと話し合い、理解を共有したほうがいいと思いました。そうすることで、インスタグラムなどを活用して観光を伸ばすのか、出生率をメインに考えるのか、その延長線上で移住者を増やすのか、あるいは、企業誘致に力を入れていくのか、既存の事業者が事業を拡大して税収を上げることがいいのか。行政として 0 か 100 か、ということではできませんが、たちまちの即効性としてどうすべきか、ということ。即効性という観点では、例えば新規創業よりも、既存の事業者の販路拡大や商品開発、あるいは人手不足解消に資源を入れるほうが即効性としては答えに近いのではないのか、とります。</p> <p>過去の会議でも申し上げたように、ほぼほぼ全自治体が同じように地方創生に取り組んでいます。全国各地の中からさぬき市を選択して住むということは、最後は、個人の感性に頼るところが大きくなります。だから、中途半端にやると、結局、特色がなくということになってしまうわけで、何に重点を置くのかが大事。割り振りを変えて、子育て重点というなら、出生に対する祝い金を周辺の自治体よりちょっと多く出すということも、1 つの特色かも知れませんが、あるいは、医療費無料、というのも、よそがだいたい 8 歳までなら、さぬき市は 10 歳までにするとかね。それには予算が必要です。その予算を捻出するためにこの事業は 2 年くらい辛抱してくれ、みたいな話をしてメリハリをつけないといけません。これは、行政としては考えづらいと思いますが、民間で言えば、先行投資という考え方になります。先行投資として 1 年間なり 2 年間は持ち出しなんや、と。だけど、2 年後にこういう状態でいけたときは、これだけ利益が上回る、と考えると取り組むのが先行投資です。利益を増やすためには、実績の維持だけではだめ。どこかで思い切った取組が必要です。行政も応用できるのではないのでしょうか。交流人口を増やすにしても、増えてきたから飲食店を整備するのか、増えてきたから、宿泊所を作るのか。宿泊所を作ってから人を呼び込むのか。ここのへんの後先は、少しリスクな話になるかも知れませんが、そういうことに取り組んだ自治体が、うまくいっているように思えます。北海道のある自治体で積極的にカメラマンを呼び込んだ、というのも、軽井沢の、犬と一緒に過ごせる空間づくりも特色だと思います。日常生活に、どんなプラスメリットをつくりだして売り出せるのか。さぬき市の特徴をつくりだすためにも、部署間連携をして、どこがどういう風に力を入れるとここの部署は何年後かにはこういうことが起こりうる、あるいは、どういう人たちに引っ越して来てもらって、どういう人たちの人口が増えれば、将来としてこういうことになる、を考えて、KPI についても、すべての部門が効率よく数字が上がることもいいのですが、どこに重点を置くべきかを議論して、達成順位を考えてもいいのではないかと感じました。</p>
委員	<p>まずはお詫びから。これまで 2 回の会に、そしてヒアリング、そしてシンポジウムにも行けず、すみませんでした。シンポジウムのご案内をいただいたときも、行きた</p>

	<p>いなあと感じていましたが、行けていなくて残念でした。</p> <p>資料を見ながら、「特色」が大事だと感じました。中小企業の支援件数に関する取組が気になりました。香川県の最低賃金の審議委員をしているのですが、金額審議で昨年から言っているのですが、金額は上げてもらいたい。これは労使で色々と議論があるのですが、労働者側の委員として申し上げていたのが、中小企業の支援策をもっと充実してほしいということです。県や国でも様々な支援策がある。しかし、非常に縦割りです。ぜひ、さぬき市では、最初は職員の皆さんが、いろいろな支援策、メニューを持って、その企業に会い、合致する支援策をうまくコーディネートしていただきたいと思います。</p> <p>ヒアリングの議論の中で、ワーク・ライフ・バランスの推進がありました。さっき言った従業員の賃金を上げるにせよ、ワーク・ライフ・バランスを充実させるにせよ、やはり企業経営がうまく安定していないとできないわけです。だから、労働者側の立場からも、既存事業者が発展していけるようなコーディネートを、一番身近な自治体として、うまくコーディネートをお願いしたいのです。また、当初から申し上げていた奨学金の関係も、検討いただいているみたいですので、ぜひお願いしたいと思いますし、これについても企業と連携できるよう、うまくコーディネートしていただいて、例えばインターンシップとか、そういう取組と絡めながらご検討いただけたらな、と思いました。</p>
委員	<p>例えば、市民税、いろいろ行政サービスをするために必要ですが、今から2割人口が増えても、現行の体制で十分住民サービスはできる、という発想になったときに、移住してから初期の2年間は住民税はいただきません、というような打ち出しも検討してはどうでしょうか。そういう考え方の議論は、行政の中にあるのでしょうか。</p>
事務局	<p>住民税に視点を当てて転入促進や転出抑制につなげることはできないか、というアイデアは内部でもあります。ただ、実施には課題も多いと感じており、研究中です。</p>
委員	<p>移住促進用でいろんな支援があるとすると、それに移住者が生み出す税金の半分相当額ぐらいをプラスαで給付に乗せる、ということはできるかも知れませんね。要するに住民税としていただきません、ではなくて、返しますという発想ですね。損益分岐点を考えつつ、特徴ある施策につなげてほしいと思います。</p>
座長	<p>行政インフラも、民間的発想がある部分では大きく必要になりつつあるのかも知れませんが、そういう民間的な発想が、地方の社会インフラ、行政サービスの支援になるような波が、もう来ているのかもしれない。</p> <p>それでは、最後の議題に移ります。今回の提言書の内容を確認したいと思います。ページ数もそれほど多くありませんので、1ページずつ確認していきたいと思します。事務局は、読み上げてください。</p>
事務局	<p><読み上げ></p>
座長	<p>いかがでしょうか。</p>
委員	<p><意見交換 ※文言修正、内容補強（詳細非公開）></p>
座長	<p>いろいろなご意見をありがとうございました。</p> <p>今日のご意見を踏まえて提言書を修正しますが、その内容は座長一任とさせていただき、座長と副座長で大山市長に提出することによろしいでしょうか。</p>

委員	<異議なし>
座長	ありがとうございました。 最後に、事務局は、総合戦略改訂までの流れを簡単に説明してください。
事務局	<説明>
座長	ありがとうございました。みなさんの任期は来年の3月31日までです。改訂内容がどうなるのか気になるころだと思います。有識者会議としての改訂版の確認方法ですが、1つは改定案ができたならまた集まって審議する、もう1つは来年度に向けての状況確認ということで事務局から改訂版をみなさんに郵送する、のどちらかかと思いますが、いかがでしょうか。
委員	<意見交換>
座長	完成してからの郵送で決まりましたので、事務局は対応をお願いします。 その他に事務局から連絡とかありますか。
事務局	特にありません。
総務部長	<挨拶>
座長	それでは皆さん、2年間、本当に熱心なご議論をありがとうございました。以上で散会します。

< 閉 会 > (11 : 30)